

3 校務DX計画

(1) 本市における校務DX化について

本市では、情報の一元管理・再利用による校務の効率化に加え、校務だけでなく校務以外の様々な情報を繋ぎ、一人一人の子どもに紐付く情報を多面的に可視化し有効に活用することを目標に令和5年度より統合型校務支援システムを本格導入している。これにより「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の結果から、教員と保護者間の連絡のデジタル化や教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化、学校内の連絡のデジタル化、教育委員会所管の業務のデジタル化の各項目でデジタル化が進んでいることがわかるが課題も多い。また、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の最終まとめでは、現在の校務情報化の課題として10点を挙げられおり、その中でも「紙ベースの業務が主流となっている」等の項目が本市でも課題となっている。これらのことを踏まえ、本市では校務DXを以下のように推進していく。

(2) 自己点検結果における課題と対策について

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」自己点検結果より「教員と保護者間の連絡のデジタル化」において「児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計ができる」「業務時間外の保護者からの問合せや連絡事項について、クラウドサービス等を用い、PC・モバイル端末等から受け付ける体制を整えている」「保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計している」学校が100%になることを目指す。「児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について」は「完全にデジタル化している」と回答した学校が市内で50%、「業務時間外の保護者からの問合せをPC・モバイル端末等から受け付ける体制を整えている」「保護者への調査等をクラウドサービスで完全に実施・集計している」と回答した学校が市内で30%となっているので、活用しているツールや使用方法の情報共有を行い市内全校での活用を促す。「教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化」においては「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を家庭で利用できるようにしている」学校のうち「毎日持ち帰って、時々利用する・毎日利用する」の割合が100%になることを目指す。現状では「時々持ち帰って、時々利用」の学校が60%、「毎日持ち帰って、毎日利用」の学校が20%となっているので、毎日持ち帰ることで一人一台端末を児童生徒が家庭で利用できるようになり、児童生徒への各種連絡や宿題・家庭学習・課題のデジタル化等が可能となることを「毎日持ち帰って、毎日利用」している学校の取り組みの情報共有を市内全校で行い毎日の持ち帰り利用の促進を図る。また、「クラウドサービス等を活用し、授業中の小テスト等にCBTを取り入れている」学校が100%になることを目指す。現状では、「取り入れている」学校が40%となっているので、既に実践している学校の取り組みの情報共有を市内全校で行い、デジタルドリル教材、MEXCBT等を利用し、小テスト等をデジタル化する事で印刷コストや印刷・配布・回収・集計にかかる時間を省き、教職員の負担軽減を図る。「学校内の連絡のデジタル化」においては「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用している」学校が100%になることを目指す。現状では、「必要な資料は全て共有している」学校が40%となっているので、既に実践している学校の取り組みの情報共有を市内全校で行い、教員間での教材等の共有・共用を通して、教職員ごと、年度ごとに新たに作成する資料の数が削減されることで教職員の負担軽減を図る。

以上のことに留意しつつ、校務支援システムの更新時期となる令和9年度においてスムーズに次世代の校務支援システムへと移行できるよう、校務系ネットワーク・システム等の現状分析を適宜行い、望ましい校務の在り方に関する検討を行っていく。